

<p>a 学校教育目標</p>	<p>郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びようとする児童の育成</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校</p>
-----------------	--	------------------------------	---

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
<p>確かな学力の向上</p> <p>児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校</p>	<p>学ぶ楽しさを味わえる学校 (児童の「知りたい」「できるように」「やりたい」「やりたい」等の「～たい」を醸成)</p>	<p>1 学習の動機付けを工夫し、ゴールイメージを明確に持たせる。 2 既習事項を学習場面で積極的に生かせるよう支援する。 3 単元末等に成長を確かめさせる。</p>	<p>・ゴールイメージを明確に持たせるよう、学習の動機付けを工夫した単元の割合 ・1教科以上、授業で「～たい」という意識で、学習している児童の割合(アンケート)</p>	<p>全単元の50% 児童の80%</p>	70.4%		100%	A	<p>①学習の動機付けの工夫の取組 ・単元全体を把握→児童に付けたい力の明確化→学習の動機づけを工夫 ⇒工夫した単元が増加・目標達成◎ ②児童の意欲の調査・分析 ⇒児童の多くが「計算が速くなりたい」「漢字をしっかりと覚えたい」等、基本的な力を伸ばしていきたいと考えている◎</p>	<p>①②④年間を通した計画的な取組カリキュラムマネジメントで、教科の横断的な学習を意図的に計画・実践するとともに、単元の導入時にねらいを明確にし、見通しをもった計画を立てて学習を進めることを継続していく。 ③児童実態と対応した効果的な取組読み書きのスキルは、継続してドリル学習で習熟を図るとともに、他の定着方法を試行し、効果的な取組を行う。 ④めざす資質・能力の明確化 児童の実態を考慮するとともに、児童に身に付けさせたい資質・能力を可視化し、学習の前後に活用しながら、より意識して「～たい。」の意欲につなげる。</p>	5			<p>・適正に評価されている。 ・子どもの実態や課題を丁寧に分析し、取組を工夫している。 ・特に学習意欲の向上に関わる取組が充実しており、子ども達は個に応じた力をつけていると感じる。</p>
	<p>生活や次の学習で使える知識・技能を習得させる学校</p>	<p>1 読み書きのスキルは、ドリル学習で習熟を図る。 2 使うために学ぶという意識の働く授業を行う。</p>	<p>・前学年までの漢字の読み書きの正答率90%以上 ・計算問題の正答率90%以上 ・学んだことを、生活や後の学習で生かした児童の割合(アンケート)</p>	<p>達成児童80% 達成児童80%</p>	95% 93%		100%	A	<p>③読み書きスキルの定着 ⇒漢字学習は、高学年の定着率が低い△ ⇒計算問題はほぼ全員正答率90%以上◎(90%に満たない児童も80%台) 計算技能の定着に個人差があり、課題△ ④使うために学ぶ意識を育てる取組 ⇒学んだことを生かしている児童多数◎ ⇒「使うために学ぶ」意識の低さが課題△</p>		5			
<p>豊かな心と健やかな体の育成</p> <p>自他を大切にしながら、切磋琢磨し合う学校風土の醸成</p>	<p>他者の良さや頑張りを感じ、学び合う雰囲気形成する</p>	<p>1 各自の得意なこと、上手なことを推薦し合い、「〇〇マイスター」として認定し、廊下へ掲示する。</p>	<p>・他者の頑張りを感じ、推薦できる児童の割合 ・他者の頑張りを感じ、自らの取組に生かした児童の割合</p>	<p>達成児童100% 達成児童70%</p>	100% 66.7%		98%	B	<p>①他者の頑張りを感じさせる取組 ・1学期、学級ごとに「よさ見つけ」を実施 ⇒日々の努力や各行事での頑張り、全員が見つけ合い、認め合うことができた◎ ⇒今後「他者のがんばりを自らに生かす」ためへの積極的な働きかけをさらに工夫していく必要がある△</p>	<p>①学校全体の取組への拡充 ・2学期から、学校全体で「よさ見つけ」を実施(「〇〇マイスター認定活動」) ⇒よさを推薦し合ったり、他者の頑張りを感じ、自らの取組に生かしたりするより良い姿を引き出す。 ②取組状況の見える化の充実 ・「めざす姿」と「努力目標」を明確にもたせ、取り組み、頑張り認め合う活動を充実する。 1 「自分はこうなりたい！」を決定 2 毎日(週)することを決定 3 努力の進捗状況を見える形に 4 努力できたことを認め合う ※学校行事に向けた取組や体力向上の取組、日々の生活目標などの取組を生かす</p>	5			<p>・適正に評価されている。 ・子ども達が互いによい所を見つけ、自分の行動に取り入れようとする活動が効果的で良い。今後の成長が期待される。</p>
	<p>自身の立てた目標に向けて、努力を惜しまない児童の育成</p>	<p>1 もっと成長したいと思わせる場の設定を工夫する。 2 目標と取組状況を見える化し、努力を称賛する。</p>	<p>1年間の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)</p>	<p>達成児童80%</p>	81%		100%	A	<p>②各行事での目標設定と振り返りの実施 ・1学期は、各行事ごとに、行事前には「目標の設定」と行事後の「振り返り」を実施(例)運動会⇒「児童会テーマ設定」→「学級ごとの目標決定」→「事後の振り返り」(例)水泳指導⇒「目標の宣言」→「コース別指導の実施」「毎時間の個人評価」→「水泳記録会の実施と表彰状授与(評価)」 ⇒行事への頑張り◎ 互いの認め合い◎</p>		5			
<p>信頼される学校</p> <p>佐木島の学校として地域住民の心の拠り所となり、必要とされる存在となる</p>	<p>島外からの児童・保護者と地域住民との人間関係の強化</p>	<p>1 行事等で、児童・保護者の顔と名前を島民に紹介する。 2 児童・保護者に、積極的に地域行事を紹介し、参加を促す。</p>	<p>・地域住民に名前を呼んでいただいた児童の割合 ・島内の地域行事に参加した児童(家庭)の割合</p>	<p>100% 100%</p>	100% 91.6%		95.8%	B	<p>①児童・保護者の顔と名前を知っていたく取組 ・運動会で名前入りゼッケンを着用 ⇒全児童が名前に応じていただいた◎ ②地域住民と協働した参加支援の実施 ・学校発信メールの活用や保護者役員による呼びかけ活動の支援 ⇒ほぼ全児童(家庭)が島内の地域行事に積極的に参加◎</p>	<p>①取組の継続・充実 ・学校の様子、児童・保護者の名前を知っていたく取組の充実を図る。(学校だより、屋外掲示板の活用等) ②学校を核とした地域とのつながりづくりの促進 ・地域行事の情報収集→地域行事の意義等を進んで発信→地域への愛着、誇りを育む。</p>	5			<p>・適正に評価されている。 ・全児童・保護者がゼッケンを着用する取組は、顔と名前が一致でき、児童と島民との交流につながった。 ・児童は積極的に島内行事に参加できている。今後も地域行事について知らせるので、進んで参加してほしい。</p>
	<p>教職員の勤務時間外在校時間の縮減(月45時間以内)</p>	<p>1 緊急時を除き、勤務時間外の用務を設定しない。 2 「働き方改革」の取組について地域・保護者へ周知し、理解と協力を仰ぐ。 3 過度な業務遂行を適正化する。</p>	<p>勤務時間外在校時間数の年間トータル時間数</p>	<p>500時間以内 達成職員100%</p>	71.4%		71.4%	C	<p>③勤務時間外の用務の設定は無し ⇒緊急時を除く用務設定は0時間◎ ④「働き方改革」への保護者説明と協力 ・全体役員会等での説明を通して丁寧に周知理解と協力◎ ⑤業務の精選、効率化 ・出張の軽減、保護者への案内で重複している項目を整理・統合、ICTの活用 ⇒勤務時間外在校時間が目標未達成△</p>	<p>③・④取組の継続・充実 ・今後も地域・保護者の協力を得られるよう、業務の質の向上を図る。 ⑤定時退庁(週1回)の徹底 ・タイムマネジメントの観点による業務の見直しを図る。</p>	5			

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。